

# 令和7年度津和野高校 PTA会報 第1号



令和7年12月25日発行

保護者の皆様、日頃は津和野高校のPTA活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。  
今年度もPTA総会をはじめ、「ツコウ祭」のPTAバザー、鍛錬行事での歩行指導・昼食準備・エイドステーション設営など、保護者の皆様のお力を借りる場面がたくさんありました。保護者の方に原稿を寄せていただきましたので、ご紹介いたします。

## ボランティアに参加して

PTA会長 山本 早苗

平素からPTA活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

今年度会長を仰せつかりました山本です。長女と二女が津和野高校でお世話になり、1年の休憩を挿んで、保護者6年目となります。最終年度となる今回は、津高祭PTAバザーと鍛錬行事の昼食準備に携わりました。参加された皆さんと忙しい中でも和やかに、楽しい時間を過ごさせていただきました。

特に鍛錬行事では、昼食終了後、おつみコミセンから生徒の皆さんを追いかけて歩きました。津和野高校で保護者として関わるのなら、他校ではできない経験、鍛錬で歩くことをしてみたかったから、仲間がいてよかった!と同じ想いを持っていたお母さんと、前半は子どものことや自分のこと等を話しながら、後半は励まし合いながら足を進めました。エイドや歩行誘導の皆さんの声掛けが力になりました。無事にゴールできた達成感といったら!実は、鍛錬を一番満喫したのは、私たちだったかもしれません。

皆さん、大変お世話になりました。



## PTA バザー・鍛錬行事に参加して

2年保護者 畑中幸胤

昨年、我が子が津和野高校に入学して約1年半が過ぎました。遠方よりの入学という事もあり、正徳寮での生活を送っております。そのため、帰省や用事での連絡を取る程度しか子どもとはコミュニケーションをとる機会がなく、普段はどのような学校生活を送っているのか分からない感じていた。学校生活や寮での生活でお世話になるばかりという事もあり、学校行事で役に立てることがあればお手伝いをしたい、という想いより今年度はPTAバザーと鍛錬行事に参加させていただきました。PTAバザーでは、売店のお手伝いをした際に子どもとも会うことができ、楽しそうに過ごしているところが見ることができて良かったと思います。翌月の鍛錬行事では、歩行指導での参加をしました。生徒や先生の皆さんと40キロの歩行に挑戦し、完歩を目指しました。残念ながらリタイアという結果になりましたが、生徒の皆さんが楽しそうに会話をしながら歩く姿、声を掛けて励まし合いながらみんなで完歩をしようとしている姿を目にして、「ツコウ生の素晴らしさ」を感じました。今回の学校行事の参加を通して父として、我が子がツコウ生としての成長、ひとりの人間として成長していったほしいと改めて感じました。PTAバザー・鍛錬行事に参加させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。



## PTA バザーに参加して

1年保護者 室井和代

普段は寮生活をしている娘の学校での様子をみられたらと思い、体育祭のPTAバザーに参加しました。担当はかき氷、唐揚げ、揚げたこ焼き、炊き込みご飯作りやドリンクの販売などで、当日その場で担当が決まりました。不安もありましたが、ほかのPTAの皆さんがとても優しく、幾つか担当がある中で、小学生の娘と一緒にかき氷作りのお手伝いをさせてもらいました。買い物に来てくれた生徒の皆さんが元気に挨拶してくれたり、お手伝いしている娘を褒めてくれたりしてくれて、楽しいやり取りができました。売り場のそばでは、生徒がグラウンドで競技に参加しており、生徒のユーモア溢れる選手宣誓や汗を流して競技に参加している姿を間近で見ることができました。普段は離れている分、体育祭やツコウ祭での娘の姿を見て、高校生活を満喫して成長していると感じ、改めて津和野高校を選んで良かったと思いました。準備や運営にご尽力くださった先生方やPTAの皆さまのおかげで、心温まるひとときを過ごすことができました。素敵な機会をありがとうございました。





### 島根県高等学校PTA連合会表彰

今年度、松浦利幸前PTA会長が島根県高等学校PTA連合会表彰を受賞されました。前松浦利幸PTA会長は津和野高校PTA役員として5年間（監事2年間・会長3年間）の間、津和野高校の学校運営を支えてくださいました。誠にありがとうございました。

本校校長室において表彰伝達式が行われた際にPTA活動にまつわるインタビューにお答えいただきましたので、ご紹介します。

#### Q、PTA活動で印象深い活動は？

鍛錬行事で4回歩いたこと。沿道から応援してもらうことが大きな励みになりました。

#### Q、PTA活動に関わって良かったなあ、と思うことは？

PTA活動に関わらなかったらただ行事に参加しているだけになってしまいます。PTA活動に関わることでPTA会員の皆さんや教職員、何よりも生徒の皆さんと話す機会が増えました。特に生徒の皆さんからはパワーをもらうことが多かったです。

#### Q、PTA活動において苦しかったことは？

学校行事での挨拶ですかね、、、。

#### Q、ツコウ保護者の皆様に前会長としてメッセージをお願いします。

ぜひ、生徒の皆さんと一緒に高校生活を楽しんでください！



### 中四国高P連大会 参加報告

津和野高校総務部 福満 尚

令和7年度の中四国大会は、島根県で開催されました。会場のくにびきメッセには、「神話の郷に集う縁～新時代を生き抜く力を～」をテーマに9県から約1000人の会員が集まりました。

開会行事で大会実行委員長の原完次氏は、「PTA活動の原動力は、子どもたちのために何かしたいという保護者や教職員の純粋な思いです。大会を通じて改めてPTAの意義を見つめ直し、子どもたちの未来のために何ができるのかを考える機会となれば幸いです。」と挨拶されました。

講演会では、「ITから生まれる人の幸せとは何か？」と題し、メカニックデザイナーの山根公利氏が地元の島根に仕事の拠点を移し、東京と距離を置いた仕事を開始した事や島根の風土を探究してデザインスタイルのルーツを模索してきたことを自らが手がけたアニメ作品の話を変えながら話されました。

高校生による発表では、浜田商業高校の「石見神楽『大蛇』」、皆美が丘女子高校のダンス、出雲農林高校の「出雲太鼓」が披露されて会場は盛り上がりしました。

研究協議では、岡山県の金光学園「子とともに育つ」、愛媛県の今治東中等教育学校「生徒の夢を支えるPTAの役割」、島根県の隠岐高校「人情の島が創る隠岐高校」と題し、それぞれの会長が各校の取組を発表されました。

最後に令和8年度の開催県である香川県のPTA連合会長からPTAの存在意義や活動のあり方を探る有意義な大会を目指しますという決意表明で大会を締めくくりました。会員の皆様のご参加をよろしくお願いします。



注：本校文化祭での大蛇です！

## 全国高等学校 PTA 連合会三重大会報告

校長 松田 哉

8月21日と22日の二日間、三重県津市で開催された第74回全国高等学校PTA連合会三重大会に参加しました。分科会で聴講した「AI時代におけるWell-Beingなキャリアデザイン」と題された講演について報告します。講師は三重県出身で、演出家兼研究者の國友尚氏(アソビジョン株式会社代表取締役)でした。

### 【講演の背景と目的】

現代社会はVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の時代と呼ばれ、進路やキャリアにおいても正解が見えにくい状況にあります。このような時代において、変化を柔軟に受け入れながら、自分自身のWell-Being(幸せ・幸福)を実現するキャリア形成の重要性が高まっています。本講演は、保護者や教育関係者に対し、AI時代に子どもの成長をどのようにサポートすれば良いかについて、示唆を与えることを目的としていました。

### 【講師の経歴と哲学】

講師の國友氏は、学生時代から演出家として活躍し、過去には無名時代の浜崎あゆみの演出や、ヤフオク・Yahoo!知恵袋などの企画開発にも携わってきた異色の経歴の持ち主です。氏は演出家の仕事を「暗闇に埋もれているものに光をあてる仕事」と捉え、これまで日の目を見なかった才能やアイデアを発掘することに情熱を注いできました。自身のキャリアを「面白いこと」から始め、「新しいこと」「難しいこと」へと挑戦し、現在は「嫌いなこと」に取り組んでいると語る氏の言葉からは、常に新しい刺激を求める旺盛な探究心とバイタリティーが感じられました。

### 【AI時代の特徴と教育の課題】

現代におけるAIの普及速度は、インターネットの普及速度をはるかに凌駕しています。インターネットが普及するまでにはデバイスの普及に時間がかかりましたが、現在ではスマートフォンなどのデバイスは子どもでも当たり前のように手にしているため、AIの普及は加速する一方です。AIが私たちの生活に不可欠な存在となり、多くの仕事がAIに代替されると言われている今、私たちはAIをどのように活用し、AIと共存していくかを考える必要があります。

国際調査によると、日本人の学力は高い一方で、自己肯定感や自立心といった非認知能力の育成が課題とされています。これまでの知識の量を重視する教育だけでは、AI時代を生き抜くための力を育むことは難しいと國友氏は指摘しました。

### 【Well-Beingと「熱源中心的な学習モデル」】

世界保健機関(WHO)はWell-Beingを「身体的、精神的、社会的に良好な状態であること」と定義しています。國友氏によれば、Well-Beingは「①ありのままの自分を受け入れること、②他者とのつながりと感謝、③生きがい、④自己への愛」という四つの要素で構成されているそうです。これらの要素を満たすためには、知識を詰め込むだけの教育から脱却し、感受性が豊かな時期にある若者に「感動体験」を提供することが不可欠だと氏は訴えました。

感動体験を教育の中心に据える考え方を、國友氏は「熱源中心的な学習モデル」と表現しました。このモデルは、単に知識をインプットするのではなく、自らの心が動く体験を通して感情を深く掘り下げ、自己理解を深めることを目指します。例えば、鬼ごっこを例に挙げ、鬼に追われる「警戒心」から、鬼に見つけられた時の「驚き」、そして逃げ切ったときの「喜び」といった一連の感情の変化を分析する「感動パターンのモデリング」を紹介しました。

### 【言語化の重要性】

この「熱源中心的な学習モデル」において特に重要なのが「言語化」のプロセスです。最近の若者は、自身の感動や感情を「やばい」「エモい」といったシンプルな言葉で済ませてしまいがちです。しかし、より豊かな言葉で自分の感情を表現し、感動パターンを明確にすることで、自己理解が深まり、他者とのコミュニケーションも円滑になります。この「言語化」の力こそが、AI時代を生きる人々が自身のWell-Beingを追求し、実現するための鍵となると氏は強調しました。

### 【人生の羅針盤】

講演の最後に、國友氏は「ココロ踊る方で」という言葉を私たちに贈りました。人生は選択の連続です。その選択に迷ったとき、自分の心がワクワクする方、熱意を持って取り組める方を選ぶこと。このシンプルな価値基準が、私たちのWell-Beingを高め、AI時代を豊かに生きるための羅針盤になると締めくくりました。

## ～今後の学校行事～

1/8 始業式

1/14～1/16 3年生学年末試験

2/19～25 1,2年生学年末試験

3/1 卒業式予行・同窓会入会式

3/2 卒業式

3/16 振替休日(3/1)

3/24 終業式

